学　　年	中１年	郡　市　名	高　　浜
提　案　者	高浜市立南中学校		西尾　拓也（提案者）

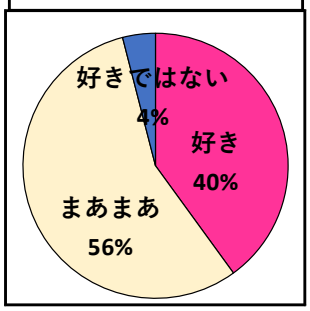
「他者との関わり合いを通して考えを深め、『高浜らしさ』を見直し、地域への愛着を高める生徒の育成」
－中学１年地理　「好きです、高浜！」の実践を通して－

１　主題設定の理由

(1) 学級の実態について

本学級の生徒は、小学校の頃から高浜に住み続けている生徒ばかりである。昔から高浜を知る生徒たちに、「高浜が好きですか」と、事前アンケート（**資料１**）を実施したところ、高浜が「好きではない」と答えた生徒は４％しかおらず、比較的自分たちの町を肯定的に見ている様子が見て取れた。

資料１　「高浜は好きですか」



しかし、「まあまあ」と答えた生徒が「好き」と答えた生徒を上回る結果となっていたことも事実であり、可もなく不可もなくという現状を感じている生徒も多く見受けられた。その理由を具体的に見てみると（**資料２**）、肯定的な意見としては「おまんと（祭り）が楽しい」「おにみち（祭り）が楽しい」といった回答が多かった。一方で、否定的な意見としては「魅力が少ない」「遊ぶところがない」といった意見が多数を占めた。つまり、生徒たちにとっての高浜の魅力とは「おまんと」や「おにみち」といった観光資源にとどまり、大きな魅力を感じている生徒が少ない現状が浮かび上がった。

資料２　資料１の回答に対する具体的な理由

高浜を「好き」な理由	高浜を「好きではない」理由
おまんとが楽しい	魅力が少ない
おにみちが楽しい	遊ぶところがない
昔から住んでいるから	ショッピングセンターがない
自然が残っているから	都会ではないから

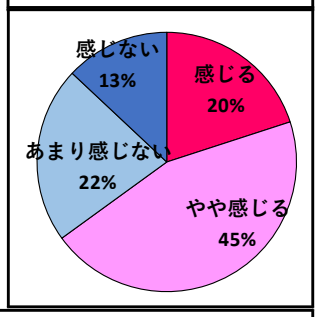
高浜は、確かに「おまんと」だけでなく、「とりめし」「かわら」といった魅力的な観光資源がたくさんある町である。しかし、町としての魅力とは、人の温かさや、交通網・商業施設の発達、教育や医療の充実、安全・安心できる環境等、さまざまな観点から捉えることができる。そして、その観点から高浜を見つめ直してみると、まだまだ生徒たちが気づいていない大きな魅力に溢れる町であると言える。

そこで、「高浜らしさ」について改めて考えることを通して、観光資源としての魅力だけではなく、町としての高浜のよさに気づくことによって高浜への愛着を高めてほしいと考えた。

(2) 高浜市の地域性を踏まえて

2019 年現在、高浜市は、愛知県内において外国人居住者数の割合が最も高い自治体となっている。その要因として、トヨタ系工場の集中や、土地や賃貸物件価格の手軽さが挙げられる。

資料３　「外国人が多いと感じますか」



実際に、生徒たちに事前アンケートを取ったところ、「外国人が多いと感じますか」との問いに対し、60％以上の生徒が「感じる」「やや感じる」と答えている（**資料３**）。その理由として、多くの生徒が「よく自転車に乗っている」「登下校時に見かける」と答えている。つまり、外国人の存在は、生徒たちの日常の一部に溶け込んでいる様子が見て取れた。

このような現状をふまえると、高浜では、今後も外国人の割合が高い状況が続いていくと考えられる。だからこそ、未来の高浜を担う生徒たちにとっては、多文化共生の視点がますます重要になってくる。そこで、高浜に住む外国人の存在を受け入れ、共に高浜で生活していく未来を見据え、異文化理解を図る単元を構想し、実践を試みた。

(3) 新学習指導要領に基づく地理学習の観点から

平成 29 年告示の「中学校学習指導要領解説社会編」では、地理分野の目標が**資料４**のように明記されている。つまり、目標に迫る授業を構築していく上では、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動」が単元の鍵となってくることが読み取れる。

資料４　地理分野の目標及び地理的な見方・考え方の捉え

〈目標〉

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

↓

・・・社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ」については，地理的分野の学習の特質を示している。すなわち，事象の意味や意義，特色や相互の関連を考えたり，地域に見られる課題を把握して，その解決に向けて選択・判断したりするということであり・・・（略）

（「中学校学習指導要領解説社会編」より一部抜粋）

そして、「地理的な見方・考え方を働かせる」とは、「対象地域に見られる事象の意義や特色を関連付けて考えたり、対象地域に見られる課題解決

に向けて選択・判断したりしていくこと」であると具体的に明記されている。
　そこで、本単元では「課題を追究したり解決したりする活動」（本研究では「追究活動」とする）として、「外国人に『高浜らしさ』を伝えるルートマップ作り」を設定した。そして、「地理的な見方や考え方を働かせて」追究活動に取り組むために、「高浜らしさ」について生活環境や交通網といった諸条件を関連付けて考えたり、ゲストティーチャーや仲間との関わりを通して見つめ直したりする手だてを取り入れた。
　本実践を通して、高浜が直面している外国人との共生を図っていく視点を基に、高浜の町としての魅力を改めて捉え、地図上で表現していく姿を期待したい。

(4) テーマの解釈と目指す生徒像

　今年度の三教研社会科部会のテーマは、**「仲間と関わりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」**となっている。前述のとおり、本研究では三教研のテーマを意識しながら、グループを軸とした追究活動を進めることによって「他者との関わり」の中で考えを深め、自分たちの住む高浜への愛着を高めていくことによって「よりよい社会づくりへの参画」へとつなげていく単元を構想した。このように、本研究では、三教研のテーマに基づき、主題を**「他者との関わり合いを通して考えを深め、『高浜らしさ』を見直し、地域への愛着を高める生徒の育成」**とし、目指す生徒像を以下のように設定した。

- **追究意欲をもって主体的に課題に取り組む生徒**
- **他者との関わり合いの中で、自分の考えを深めていく生徒**
- **自分の町のよさ（高浜らしさ）を見直し、愛着を深めていく生徒**

２　研究の計画と方法

(1) 研究の仮説

　上に示した目指す生徒像に迫るために、研究の仮説を以下のように設定した。

仮説１　**課題と出会う段階において、切実感のある活動を展開することによって、追究意欲をもって主体的に課題に取り組むことができるであろう。**

仮説２　**考えを広げる段階において、自分とは違う見方や考え方に出会うことによって、関わり合いの中で自分の考えを深めていくことができるであろう。**

仮説３　**考えを伝える段階において、これまでの学びを価値づけることによって、自分の町のよさに改めて気づき、愛着を高めていくことができるであろう。**

(2) 研究の手だて

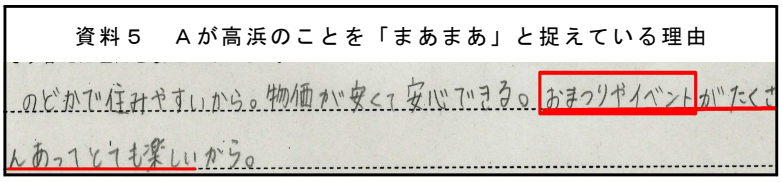
　上に示した仮説を実証するために、具体的な手だてを以下のように設定した。

（仮説１に対し）　追究意欲をもって主体的に課題に取り組むための手だて
　　手だて１　**高浜市の地域性を生かした導入や追究活動の工夫**
（仮説２に対し）　関わり合いの中で自分の考えを深めていくための手だて
　　手だて２　**新たな視点をもたらすゲストティーチャーの活用**
（仮説３に対し）　自分の町のよさに改めて気づき、愛着を高めていくための手だて
　　手だて３　**育んできた価値観を深める最終発表会やバスツアーの設定**

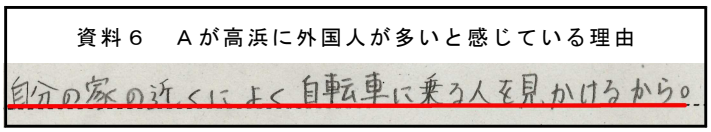
(3) 抽出生徒について

　抽出生徒Ａは、真面目に学習に取り組むが、挙手が少なく、控え目な生徒である。事前アンケートにおいては、「高浜が好きですか」の問いに対し、「まあまあ」と答えている。その理由として、「おまつりやイベント」という点を挙げており、高浜の魅力を観光資源に見出している様子がうかがえた（**資料５**）。

資料５　Ａが高浜のことを「まあまあ」と捉えている理由


のどかで住みやすいから。物価が安くて安心できる。おまつりやイベントがたくさんあってとても楽しいから。

資料６　Ａが高浜に外国人が多いと感じている理由


自分の家の近くによく自転車に乗る人を見かけるから。

　また、「高浜に外国人が多いと感じたことがあるか」の問いに対しては、「感じる」と答えており、「自分の家の近くでよく見かける」と言う記述からも、身近に外国人の存在を実感しながら生活している様子が見て取れた（**資料６**）。
　このようなＡの実態をふまえ、一生懸命学習に取り組めるＡだからこそ、他者との関わり合いの中で多様な価値観に触れることができれば、更なる成長につながると考えた。そこで、全体の変容を、

Ａの姿を通して具体的に捉えていきたいと考え、Ａに「他者との関わり合いを通して考えを深め、『高浜らしさ』や外国人に対する考え方を見直し、地域への愛着を高めてほしい」と願い、その変容を追うことで、本研究を検証する指針とした。

３　研究の実践と考察

(1) 実践の概要

①　「出会う」段階

生徒が課題と出会う導入部では、高浜の外国人居住者の割合を予想させた上で、高浜市が愛知県内で１位である事実を伝えた。そして、「高浜に住む外国人は、どんなところに高浜の魅力を感じているのだろうか」と投げかけ、実際に高浜に関わりのあるアキリンさん（高浜市にＡＬＴとして勤務する外国人）や、高浜市役所総合政策グループで町づくりの仕事に携わっている山本久美さんに話を伺う機会を設けた。こうした関わりの中で、高浜のよさを、高浜に引っ越してくる外国人に伝えていきたいという気持ちを高めていった。

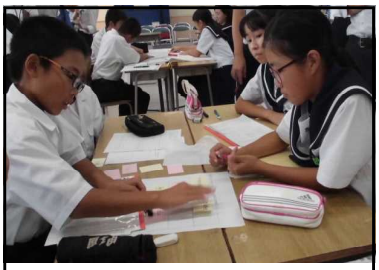


写真１「どんなルートがいいかな」

②　「広げる」段階

「出会う」段階で、意欲を高めていった生徒たちに対し、単元の軸となる追究活動として、「高浜に引っ越してくる外国人のために、「高浜らしさ」を伝えるルートマップ作り」を設定した。その際、アキリンさんや山本さんからアドバイスが受けられるように中間報告会を設定した。生徒たちは、何度も考えを見直しながら、よりよいルートマップ作りに専念していった（**写真１**）。

③　「伝える」段階

単元の終末部として、アキリンさんを招いて最終発表会を設定した。その上で、実際にアキリンさんと共にバスに乗って、自分たちが作ったルートマップを基に『高浜らしさ』を巡るバスツアーに出かけた。そして、最終的に市役所の山本さんを通して高浜市長に製作したルートマップ集を届け、達成感を生み出す学びにつながった。

(2) 仮説の検証

①　仮説１に対する、手だて１の実践概要

〈高浜市の地域性を生かした導入や追究活動の工夫〉

①導入の工夫

「出会う」段階において、高浜市における外国人居住者の割合が、県内１位であるという事実を基に、生徒の心を揺さぶった。外国人と共に生活する現状が当たり前だと感じていた生徒たちは、驚きと共に高い関心を示した。そして、外国人はどんなところに高浜の魅力を感じているのか、単元全体の追究意欲を高めていく姿につながった。

②追究活動の工夫

追究意欲が高まってきた段階で、単元の軸となる追究活動として、「外国人のために『高浜らしさ』を伝えるルートマップ作り」を設定した。「外国人のために」「ルートマップ作り」といった条件設定は、高浜の地域性が生かされた視点であり、生徒たちの主体的な学びにつながる要因となった。

ア　「出会い」の場面において、追究意欲を高めていくＡ

導入段階では、まず、「都道府県別の外国人居住者の割合」において愛知県の順位を予想する活動を行った。その際、Ａは、愛知県の順位を５／ 47 位と上位に予想した（**資料７**）。その理由として、「（愛知が）大きく都会である名古屋市があるから」「車で有名な豊田市があり、発展している」と答えており、都会に外国人労働者が集まっていると考えていた。実際も、東京都、大阪府に続き愛知県は第３位であり、Ａの予想はほぼ的中していた。

資料７　Ａの「都道府県別の外国人居住者の割合」の愛知県の順位予想

予想	理由
５位	大きく、都会である名古屋市があるから。 車で有名な豊田市などあり、発展しているから。（でも一部はまだだけど）

資料８　Ａの「市町村別の外国人居住者の割合」の高浜市の順位予想

予想	理由
19 位	ブラジル系統の人をよく見かけるから。　住みやすいから?? お店とかに売っている品物が安いから。

そこで、今度は、「市町村別の外国人居住者の割合」において、高浜市の順位を予想する活動を行った。Ａは、高浜市の順位を 19 ／ 54 位と今度は中位に予想した（**資料８**）。その理由として、Ａは、実際の生活の中で「ブラジル系統の人をよく見かける」という経験に基づいた根拠を挙げているものの、「都会では

資料９　初発の授業後のＡの授業日記

授業日記

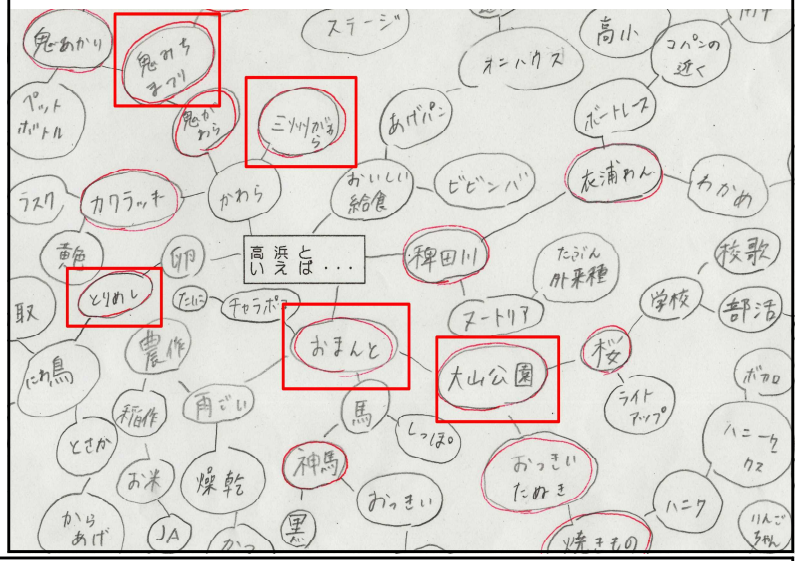
まさか高浜市が1位だとは思わなかったからすごく驚いた。でも、たしかによく自転車に乗っている人を見かけるし、絶対どこかにいるから確かになるほどなと思った。

外国人の人から見れば、高浜市はどんなところが魅力的に思えるのかが少しきになる。

ない」高浜は決して高い順位予想ではなかった。そして正解発表において、高浜市が第１位であることを伝えたところ、自分の予想をはるかに上回る結果を知り、驚いた様子のＡの姿が見て取れた（**資料９**）。その一方で、その日の授業日記において、「1 位であるという事実」と、「外国人を見ることが多いという経験」を結び付けて納得もしているＡの姿が見られた。このように、心を揺さぶられたＡは、「外国人の人から見れば、高浜の魅力はどんなところが魅力的に思えるのかが少し気になる」と、今後の学習に向けて、追究意欲の高まりを見せた。

そこで、外国人が魅力に感じる「高浜らしさ」とは何であるのか、高浜の魅力を再度見つめ直す活動を行った。追究意欲の高まりが見られたＡは、ウェビングマップを紙面いっぱいに書き上げた。Ａは、「高浜らしさ」を、赤く丸で囲った「おまんと」「かわら」「とりめし」等といった、観光資源に見出しており（**資料10**）、外国人が高浜に住む要因と捉えている様子が見て取れた（**資料11**）。その一方で、自分たちの生活経験に基づいて、「治安や設備については自信をもって誇れないから、やっぱり不思議だなと思った」とも授業日記に綴っており、今後の学習につながる課題を掴み始める姿がうかがえた。このように、「高浜」の地域性を基に組み立てた導入活動は、単元を通しての追究意欲の高まりを生み出す手だてとなった。

資料10　Ａが作成したウェビングマップ



資料11　ウェビングマップ作成後のＡの授業日記

自分たちの意見は現実的だったけれど、外国の人達は観光など、そういう面での魅力を感じ高浜市に住む人が多いんじゃないかと思った。ずっと住んでいる自分にとっては高浜の名産や有名なものなどはほこりに思うけど、治安や設備については自信をもってほこれないから、やっぱり不思議だなと思った。

イ　「高浜らしさ」について考え、主体的に追究活動に取り組んでいくＡ

追究意欲を高めていったところで、単元の軸となる追究活動として「高浜に引っ越してくる外国人のために、『高浜らしさ』を伝えるルートマップ作り」を設定した。

この活動の鍵となるのは、「外国人のために」と「ルートマップ作り」である。

１点目の「外国人のために」の条件は、日常に外国人の存在が見える高浜だからこそ設定できるものであり、「出会う」段階からずっと大切にしてきた視点でもある。さらに、アキリンさんとの関わりも相まって、追究意欲を高めるのに非常に有効に働いた。

資料12　追究活動に取り組み始めた直後のＡの授業日記

高浜の魅力的なものから実用的なものまで、いろいろなジャンルで候補にでてきました。その中でも、おまんとやおにみちなどのお祭は外国の人達に教えてあげたいと強く思いました。

資料12は、グループで追究活動に取り組み始めた直後のＡの授業日記である。高浜らしさを観光資源に求めているＡの感想からは、「おまんと」や「おにみち」といった内容を、「外国の人達に教えてあげたいと強く思いました」といった記述が見られ、追究活動に意欲的に取り組んでいる様子がうかがえた。

２点目は、「ルートマップ作り」である。単純に「高浜らしさ」を紹介するだけでは、高浜のよさを「点」でしか捉えられない。そこで、文字どおり、紹介する場所をルートでつなぎ、マップという形で表現することによって、高浜のよさを「面」で表現できるようになった。これもまた、高浜が、中学校区が二つしかない小さな町で、生徒たちが市全体の概観をつかんでいるからこそ設定できる条件である。

資料13　A班が紹介したい場所

ことがら	場所
	病院
高浜の歴史	図書館
人気な飲食店	
とりめし	スーパー
	稗田川

Ａの所属する班（以降Ａ班とする）は、話し合いを通して、紹介する場所を５か所に絞った（**資料13**）。それらは、班員全員が場所を把握し、自宅から十分行ける距離にあった。そのため、全員がそれぞれの役割と責任をもって調べ学習を行うことが可能となり、Ａ班全体

資料14　追究活動を進めていく中でのＡの授業日記①

スーパーとかがたくさんあって地図に書きこむのが大変だったけれど、頑張って探してなんとかできたので良かったです。各自で調べに行っていたのでくわしくできそうだなと思いました。

が課外時間においても意欲に追究活動に取り組む姿につながっていった。

このことは、Ａの授業日記（**資料14**）からも見て取れ、Ａがそれぞれのメンバーのがんばりに気づいている様子がうかがえた。そして、Ａ自身もまた、「高浜の歴史」を紹介する担当となり、自宅で調べ学習を行ったり、実際に郷土資料館に足を運んだりしていく等、意欲的に追究活動に取り組んでいく様子が見て取れた（**資料15**）。

資料15　追究活動を進めていく中でのＡの授業日記②

家で少し調べてきたので、表として出すことができたらいいなと思いました。
金曜日に図書館の2階にある郷土資料館で、良い写真が撮れたらいいなと思いました。

このように、高浜市の地域性を生かした導入や追究活動の工夫といった手だて１は、追究意欲をもって主体的に課題に取り組んでいくために有効に働いた。

②　仮説２に対する手だて２の実践概要

〈新たな視点をもたらすゲストティーチャーの活用〉

他者との関わり合いの中で自分の考えを深めていくために、本単元では、ゲストティーチャーとして、アキリンさんや山本さんに常時関わっていただく形で授業を展開していった。その上で、単元のキーとなる「広げる」段階においては、「中間報告会」の後に、具体的なアドバイスをいただく時間を設定した。特に、アキリンさんには、生徒たちの考えに新たな視点を与えていく役割を担っていただいた。このようなアキリンさんや山本さんとの関わりを通して、生徒たちは、改めて「高浜らしさ」について考え、自分たちのルートマップを見直していく姿が見られるようになった。

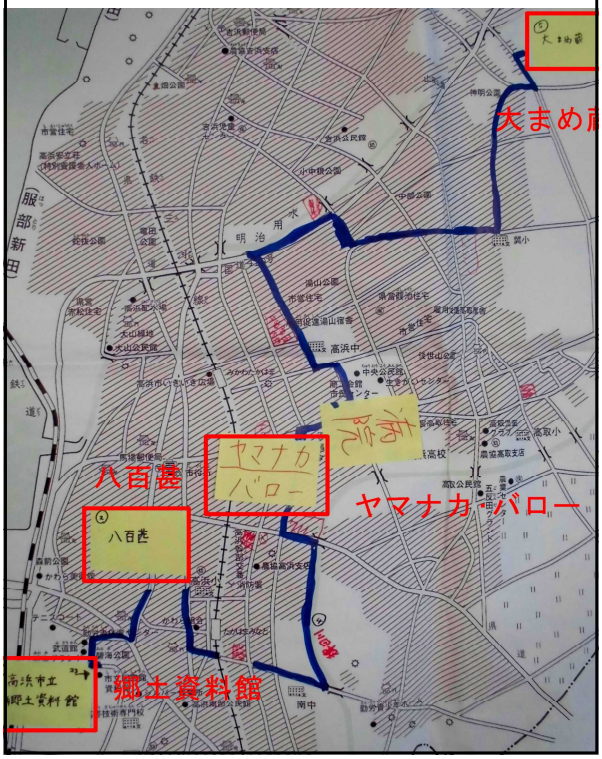
ア　狭い視野の中で、「高浜らしさ」を捉えているＡ

Ａ班は、中間報告会時に、**資料16**のようなルートマップを発表した。ルートに関しては、紹介したいスポットを単純に南北に結んだ、地図で表すメリットに乏しい直線的なものであった。

また、最終的に決定した五つの紹介スポットは、「郷土資料館（図書館）」は歴史を紹介する場所として、「八百甚」と「大まめ蔵」は、おすすめの飲食店として、「ヤマナカ」「バロー」はとりめしが買えるというスーパーという理由で選択していた（**資料17**）。つまり、判断基準は「外国人のため」ではなく、「自分たちがすすめたい」にあった。

中間報告会後のＡの授業日記には、自分たちの発表の修正点には触れてはいるものの、自分が調べ学習の際にお世話になった加藤さんに自分のがんばりを伝えたいという思いが優先されている様子が見られた（**資料18**）。このように、中間報告会時では、まだまだ「外国人のために」の視点が希薄で、自分たちが紹介したい場所を紹介するに過ぎない段階であった。

資料16　中間報告会時のＡ班のルートマップ



イ　ゲストティーチャーとのかかわりの中で、「高浜らしさ」を見つめ直していくＡ

この現状をふまえ、中間報告会後に、アキリンさんと山本さんにアドバイスをいただく場面を設定した。アキリンさんには「高浜に引っ越してくるとしたら外国人としてどんな点が気になるのか」という視点から「生活」というキーワードに触れていただいた（**資料19**）。そして、山本さんには「町づくりをする上で、市としてどんなことに配慮しているか」という視点で「安心・安全」というキーワードに触れていただいた（**資料20**）そして、Ａ班は、二人のゲストティーチャーからのアドバイスを基に、改めて自分たちのルートマップを見直し、追究活動に取り組んでいった。その話し合いの中で、随時山本さんやアキリンさんにも入っていただき、活動を進めていった。

資料17　紹介スポットを選定した具体的な理由

高浜の歴史	図書館（郷土資料館）	高浜の歴史を紹介して見た
人気な飲食店	（大まめ蔵・八百甚）	高浜で人気、おすすめしたい飲食店を紹介したいから。
とりめし	スーパー（バロー・ヤマナカ）	高浜の名産であるとりめしと、売っているスーパーの場所を

資料18　中間報告会後のＡの授業日記

かんちがいをしてしまったりとなかなか上手くプレゼンするのが難しかったですが、なんとか終わることができたので良かったです。市役所からのルートと調べた場所の位置を明確にしたいと思いました。図書館の加藤さんにも自分達の書いた紹介文を見せたいです。

資料19　アキリンさんの助言に対するＡのメモ

①アキリンさん
・コンビニの場所　・目的地までの時間
・薬をどこで買うのか　・教育（学校）

資料20　山本さんのアドバイスに対するＡのメモ

②山本さん
・安心安全（便利だけじゃなくて）　・自転車の距離
・20代30代の人が多い→どんなことを知っているといいのか。

Ａは、山本さんやアキリンさんとの関わり合いの中で、「高浜で有名なもの」だけではなく、新たな視点として「日常生活に大切なもの」も重要であると考えるようになった（**資料21**）。そして、授業後のメモには、Ａ自身が追加したい場所として、「避難場所」「事故が多い場所」の２か所を挙げていた（**資料22**）。さらに、単元前から感じていた「外国人の自転車の多さ」にも触れる等、「安心・安全」というキーワードや外国人の立場に立って考える記述が見られるようになった。

さらに、その時の授業日記においても、「高浜らしさ」の捉えに変容が見られた（**資料23**）。単純に自分たちが好きなスポットを紹介していた考えから「アキリン先生からの視点を重心的に考えて取り組むことができた」と実感し、新たな視点を捉え始めている様子が見て取れた。また、続けて、「銀行」や「避難場所」といった箇所は、「アキリン先生の視点がないとでてこなかったので新鮮」と記述しており、アキリンさんとの関わりの中で、Ａ自身が大きな価値を見出し、考えを深めていっている様子が見て取れた。

このように、新たな視点をもたらすゲストティーチャーを活用した手だて２は、他者との関わり合いの中で考えを深めていくのに有効に働いた。

資料21　中間報告会後のＡ班の話し合いの様子

山本さん　：高校、大学を卒業して、もし外国に行くとしたら、何が知りたい？
（口々に、スーパー、病院、コンビニ、ＡＴＭ、銀行・・・と場所を出し合う）
山本さん　：安心、安全の視点に立ってみたら？
Ｃ１　：その国の人がよく行く場所は安心すると思う
生徒Ａ　：あと、避難場所とか知りたいかも
アキリンさん：（避難場所という発言に対して）That's great!
Ｃ２　：日常生活に大切なもの、と、高浜の有名なものがあるといいね。
（省略）
Ｃ１　：他には、どうする？
生徒Ａ　：（Ｃ２の発言を受けて））バランスをよくしたいな
Ｃ３　：「高浜らしさ」って？
Ｃ１　：飲食店があんまりない、外国人がよくいくお店？
Ｃ３　：ボカラ、福季来、大まめ蔵とかかなあ・・・
Ｔ　：「誰のために」の視点を大切にするといいよね
（省略）

資料22　Ａが考えた追加したい紹介スポット

ことがら	場所	理由
交通事故の多発	交通事故が多い場所 道路	どこで多く事故が起きているのか知っておくと良いんじゃないかと思う。（安心できる）
地震から身を守るために	地震のひなん場所	万が一のことが起きた場合に冷静にひなんができるようにするため。（ひなんグッズなども入れると良い）
自転車でかかる時間	調べた場所	外国人の人で自転車を利用している人が多くいるのでかかる時間などを書いておくと安心できるし、便利だと思ったから。

資料23　中間報告会を踏まえた話し合い後のＡの授業日記

高浜らしさの事が前には重心的に考えているような気がしたけれど今回はアキリン先生からの視点を重心的に考えて取り組むことができたので良かったです。銀行や避難所がでてくるのはアキリン先生の視点がないとでてこなかったので新鮮だなと感じました。

③　仮説３に対する手だて３の実践概要

〈育んできた価値観を深める最終発表会やバスツアーの設定〉

①「最終報告会」の設定

考えを「伝える」段階において、再度アキリンさんを招いて最終発表会を設定した。中間報告会を経て、外国人の立場に立って見直されたルートマップは、外国人に対する配慮や「高浜らしさ」が随所に表れ、これまでの学びが反映された地図となっていった。そして、単元を通して生徒たちの外国人に対する見方にも変容が生まれていった。

②バスツアーの設定

単元のまとめとして、完成したルートマップを基に、実際にバスに乗ってアキリンさんを案内するバスツアーを設定した。バスツアーでは、今までの学びの中で育んできた「高浜らしさ」を実際に肌で感じ、高浜のよさを再確認することができた。そして、最終的に、市長さんに１冊にまとめたルートマップ集を提出することで、これまでの学びに達成感が生まれ、高浜に対する愛着を高めていく姿が見られた。

ア　「高浜らしさ」を追究していく中で、外国人を受容する見方が育まれていったＡ

中間報告会後、改めて「高浜らしさ」を見直したＡ班は、最終的に外国人の視点に立ったルートマップを作り上げていった。**資料24**は、最終発表会時のＡ班のルートマップである。特に変容が見られた点が４点ある。

一つ目は、ルートが周回コースに変わった点である（**資料25**）。なるべく広く回ることを意識した結果、高浜のよさが地図全体を使って表現されたものとなり、いろいろな場所を見て回れるようなマップとなった。また、高浜の道を印象付けてもらえるようにした結果、高浜の主要施設の前を数多く通る工夫がなされたルートマップとなった。

二つ目は、紹介スポットの変更である（**資料26**）。中間報告会時から「大まめ蔵」「八百甚」とい

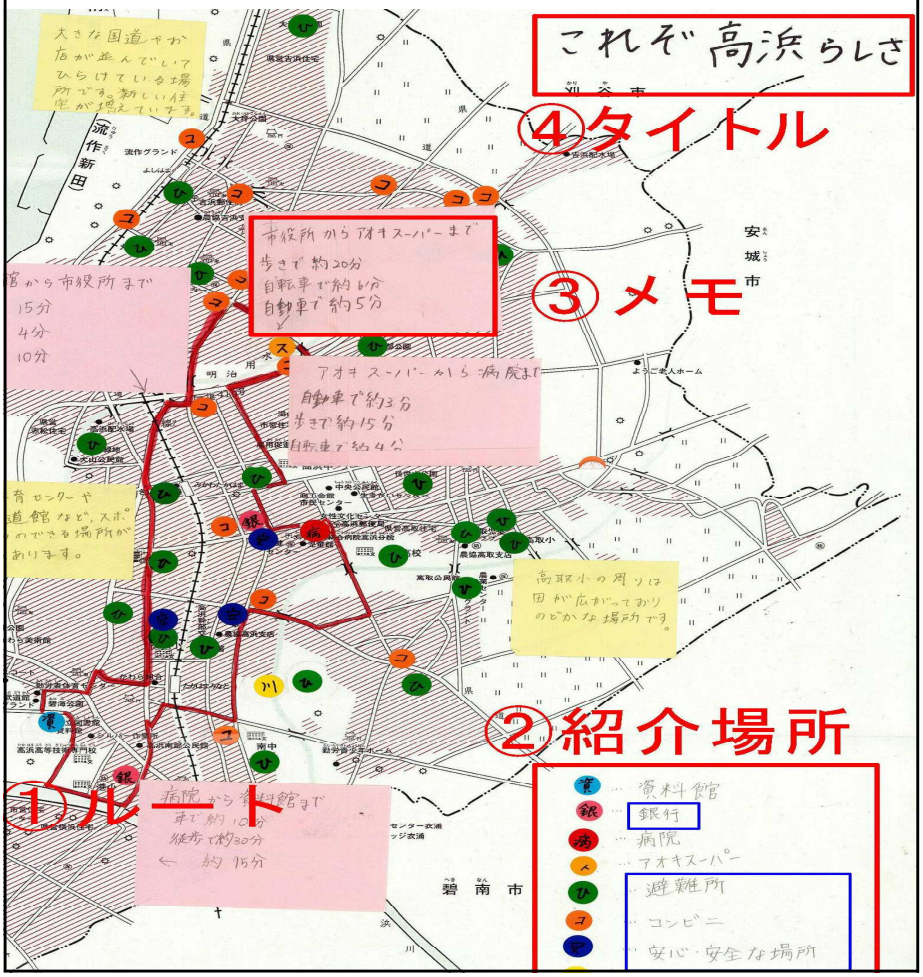
った具体的な店舗がなくなり、「銀行」「コンビニ」「避難所」「安心・安全な場所」が付け加えられた。前者二つは、アキリンさんからいただいた「生活」の視点、後者二つは、山本さんからいただいた「安心・安全」の視点から、改善が見られるマップとなった。そして、小さなシールを使って、実際の位置も示すものとなり、より配慮がなされた地図となった。

三つ目は、情報を補足するメモが追加された点である。黄色のメモにはルート上の町の様子が書かれており、ピンク色のメモには徒歩・自転車・自動車でかかるおよその所要時間が書き込まれている。特に、自転車の時間が書き込まれた点は、授業当初から自転車に乗る外国人が多いと感じていた、Ａの配慮が反映されたものとなった。

四つ目は、ルートマップに題名がついた点である。「これぞ高浜らしさ」と名付けられたタイトルは、単元全体にわたって追究してきた学びの成果を象徴するものとなった。

そして、アキリンさんを招いて行った最終発表会後の授業日記からは、中間報告時には希薄だった、外国人の立場に立って考えるＡの姿が読み取れた（**資料27**）。特に、自分がネガティブに受け止めていたスーパーや薬局の数に関して、アキリンさんの考えに共感を覚えた点は、外国人の視点に立ち、考え方を受け入れている様子が見て取れた。そして、外国人と接点をもち、少しずつ距離を近づけていきたいと考えるようになったＡは、単元を通して外国人に対する認識に変容が生まれ、より身近に感じるようになっていった。

資料24　最終発表会時のＡ班のルートマップ



資料25　最終的なルート選定に対するＡ班の考え

なるべく広くまわることができるようにしました。高浜市の道を印象づけて覚えてもらえるように、大きな病院や図書館、などの前を通れる道にしました。いろんな場所が通れる工夫のルートにしました。稗田川沿いの道はせまいので、稗田川の見え橋を、ルートに加えました。

資料26　紹介スポットの変更に対するＡ班の考え

前よりもだいぶ生活に関わることが増えたと思います。あと、避難場所やコンビニはたくさんあるので、全部マップの中に書き入れたことは大きく変わったなと思いました。

資料27　最終発表会後のＡの授業日記

外国人の方はよく自転車を使っていて、最初の方はそのことの意識が薄いなと思ったけれど、後からしっかり意識しながらルートの距離やかかる時間のことが書けたので良かったです。スーパーや薬局などについては個人的に多すぎるなと嫌にとらえていたけれど、アキリン先生はスーパーや薬局などについてとても多いから便利、と良い評価をしていたので、たしかに便利だから良いかもしれないなと思うことができました。高浜市民の人達は優しくて温かい人達がたくさんいるけれど、外国人の人達との関わりは少ないんじゃないかと思います。なのでそんなふれ合うことができるイベントなどを行うともっと良いのではないかと思います。

イ　「高浜らしさ」の本質に気づき、高浜の魅力を改めて感じるようになったＡ

最終発表会後に設定したバスツアーでは、アキリンさんに一生懸命高浜の紹介をするＡの姿が見られた。バスツアーを終えた後の授業日記（**資料28**）には、「アキリン先生がとても楽しそうにしていたので嬉しかった」という記述が見られ、これまでの学びに対する達成感を覚えたＡの様子が見てとれた。さらに、バスツアーを通して、実際の体験とこれまでの学びがリンクし、高浜の魅力を改めて実感することができた様子がうかがえた。

そして、本単元終了後、まとめとして「高浜らしさ」について考えた時、本質に迫るＡの姿がはっきりと見て取れた（**資料29**）。単元前から感じていた「とりめし」や「かわら」といった高浜の観光

資源としての魅力に加え、スーパーや商店、道、土地といった「生活面」にも「高浜らしさ」を感じるようになった。さらに「広くて便利な道」だけではなく「細くて車の通れないような道もある」が、そういった負の側面も「高浜らしさ」と前向きに捉えられるようになったAの姿が見られた。

このように、育んできた価値観を深める最終発表会やバスツアーを設定した手だて３は、外国人を受容していく見方や考え方を深めたり、高浜のよさに改めて気づいたりする姿につながり、徐々に高浜に対して愛着を高めていくのに有効に働いた。

資料28　バスツアー後のAの授業日記

アキリン先生などに、前よりもより伝えやすいように意識することができたので良かったです。今回バスでまわった時に、アキリン先生が、とても楽しそうにしていたので、とても嬉しかったです。紹介する内容が、高浜らしさだけではなく、生活面のことなど、幅広く増えて、視野が広がりました。高浜には、たくさんの魅力があるなと改めて思いました。高取や吉浜の方は、あまり行かないので、自分自身、新たに知ることがたくさんできたので、良い機会になりました。

資料29　単元終了後のAの「高浜らしさ」の捉え

郷土の事や、発展しているとりめしや、かわらも高浜らしいと思いますが、スーパーやコンビニ、などのお店や道、土地などの生活面でも高浜らしさがあると思います。とりめしやかわらは市民の人達から愛されていて、高浜のじまんだと思っています。スーパーやコンビニは、たくさんあって便利なので、とても助かる存在です。道は、とっても広くて便利なところもあれば、細くて車の通れないような道もあります。でも、それも高浜らしいと思います。

４　研究成果と課題

(1)　研究の成果

本研究の成果として、以下の３点を挙げる。

〈本研究の成果〉

①高浜市の地域性を生かした導入や追究活動の工夫を取り入れたことによって、追究意欲をもって主体的に課題に取り組むことができた。
②新たな視点をもたらすゲストティーチャーを活用したことによって、関わり合いの中で自分の考えを深めていくことができた。
③育んできた価値観を深める最終発表会やバスツアーを設定したことによって、外国人を受容していく見方や考え方を深め、高浜のよさに改めて気づき愛着を高めていくことができた。

また、抽出生徒であるAにも、単元を通して大きな変容が見られた。

本単元の振り返りの際に、「この授業を通して外国人に対する見方や考え方は変わりましたか」と聞いたところ、Aは「少し変わった」と答えた。その理由として、Aは、少し近寄りがたさを感じていた外国人に対し、「身近に感じることができるようになった」と答えており（**資料30**）、単元前に比べて外国人を受け入れようとする見方や考え方が育まれていったことが分かった。

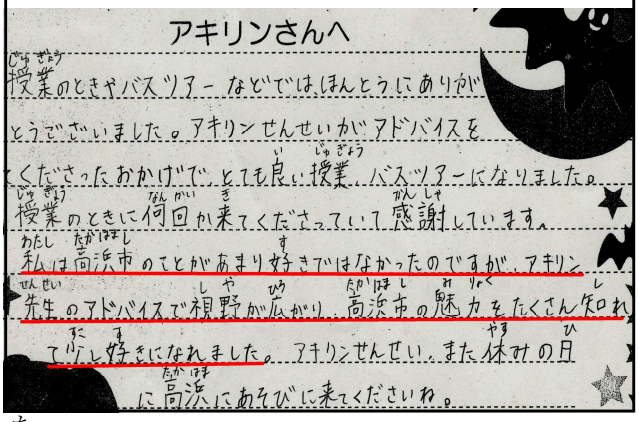
そして、本実践を終えた後、アキリンさんに向けて書いた手紙（**資料31**）の中で、Aは「視野が広がり、高浜市の魅力をたくさん知れた」ことによって、高浜が「少し好きになった」と書き留め、単元前に比べて少しずつ高浜に対する愛着を高めていったAの様子がはっきりと見て取れた。

このように、Aは、本単元の学びを通して、「高浜らしさ」や外国人に対する見方や考え方に変容が生まれ、少しずつ高浜に対する愛着を高めていく姿が見られた。

資料30　単元終了後の、Aの外国人に対する見方が変わった理由

高浜に住む外国人の方を前は怖かったし近よりがたかったけれど、今回の授業で外国人の方のことを身近に感じることができるようになった。

資料31　アキリンさんへのお礼の手紙


アキリンさんへ
授業のときやバスツアーなどではほんとうにありがとうございました。アキリンせんせいがアドバイスをくださったおかげで、とても良い授業バスツアーになりました。
授業のときに何回か来てくださっていて感謝しています。
私は高浜市のことがあまり好きではなかったのですが、アキリン先生のアドバイスで視野が広がり、高浜市の魅力をたくさん知れて少し好きになれました。アキリンせんせい、また休みの日に高浜にあそびに来てくださいね。

以上のように、目指す生徒像に迫る成果が見られたことから、本研究の仮説に対する手だては有効に働き、本実践は一定の成果を上げることができた。

(2)　今後の課題

最後に、課題として２点挙げる。

１点目は、ゲストティーチャーを活用する際のメリット・デメリットの把握である。ゲストティーチャーが生徒たちへ与える影響は非常に大きく、追究活動の対象が、私が意図していた「高浜に引っ越してくる外国人のために」から、共に学んできた「アキリンさんのために」へと生徒の意識が傾いてしまった側面も見られた。今後は、より効果的な学びを生み出す活用方法を模索していきたい。

２点目は、学びを生かす継続的な授業実践である。本単元で試みた授業展開は、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った、アクティブラーニングそのものであると言える。育んだ価値観を生かすためには、今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図り、継続していくことが重要である。そのために、私自身も研鑽を重ね、生徒たちとともに日々成長していきたい。